

**今日のトピック ASEAN4の金融政策（2017年5月）**

**各国とも政策金利を据え置き**

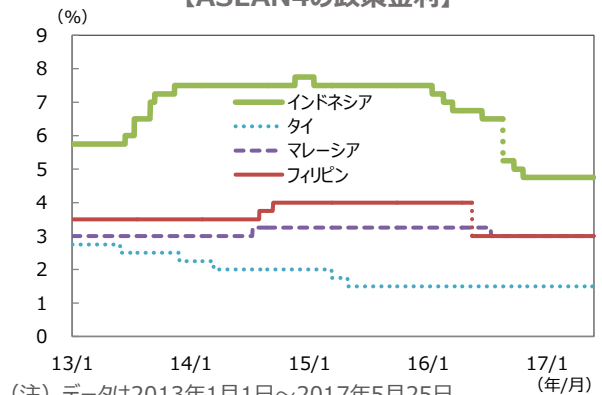
**ポイント1 5月に政策決定会合開催**

- 東南アジア諸国連合（ASEAN）の主要4カ国（インドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン）では、それぞれ17年5月に金融政策決定会合が開かれました。市場予想通り、各国とも現状の金融政策が維持されました。

**ポイント2 各国とも政策金利据え置き**

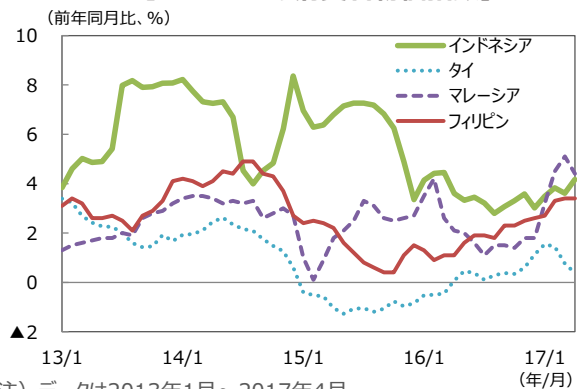
- フィリピン中央銀行は5月11日、政策金利を3.0%に据え置きました。17年4月の消費者物価の前年比が3.4%と14年11月以来の高水準にあるなか、インフレの上振れリスクを指摘しています。
- マレーシア中央銀行は5月12日、政策金利を3.0%に据え置きました。17年に入り上昇したインフレは年後半には鈍化するとしています。
- インドネシア中央銀行は5月18日、政策金利を4.75%に据え置きました。足元のインフレは目標レンジ内にあり、通貨ルピアが落ち着いた動きとなっているため、金融政策は比較的自由度があると見られます。
- タイ中央銀行は5月24日、政策金利を1.5%に据え置きました。インフレは年後半に上昇するが、当面物価目標を下回る可能性があるとしています。

【ASEAN4の政策金利】



(注) データは2013年1月1日～2017年5月25日。  
フィリピンは2016年6月に、インドネシアは2016年8月に政策金利の枠組みを変更。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【ASEAN4の消費者物価指数】



(注) データは2013年1月～2017年4月。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**今後の展開 金融政策は中立姿勢が継続、フィリピンは利上げも**

- インドネシア、タイ、マレーシアの中央銀行は、景気が堅調を維持するなか、原油価格の上昇が一服していることや通貨が対米ドルで安定していることを背景に、インフレが目標レンジ内に収まる見通しであることから、当面中立姿勢を続けると見られます。フィリピンについては、中央銀行がインフレの高まりを警戒しており、先行き小幅の利上げが行われると見込まれます。

**ここもチェック!** 2017年5月23日 好調続くASEAN4のGDP（2017年1-3月期）  
2017年5月22日 S&Pがインドネシアを投資適格級に格上げ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。